



一枚の絵をいつも描こうとしているけど左うえの部分に何を描けばいいかわからないそのほかの描き終えた部分はオレンジの何を描いたかわりにくい絵
図書館の入口にいた君のキャンパス左うえに淡い太陽だけがあってそのほかは何を描けばいいかわかってなかった。

*

すわりながらベッドで遊ぶことをかながえる何かを操るためにお金を払わずに人が二人であって汗をたらしているちいさいわらいのことを宇宙のなかにうもれる時にかながえていて何も見えない

水をちまちまのむ言葉は命だといっている楽しいことがないしずかな人体の中のいちばん暗い場所が寂しく感じる。

*

家族と歩いていると
なきたいような
気分になる
あつかろうと
寒かろうと
風のにおいに関係なく

僕の頭のなかの
うつくしい短編小説は
だれがその本を買ってくれたんだろう

リビングの食卓の
うらの落書
僕がかいた落書
クレヨン
姉と兄と
みんな画用紙に絵をかいた

今
どの季節のものかわからない風によって
足もとがふわついて行く

車でよく通った
国道の上に行く

親戚達の
すんでいたまちの上に行く

今はもうないはずの
商店街の上に行く

廻り灯籠の夢が
山手電車によって
何もかも

見えるさ

少年は早く
絵をかき終えたい。

*

消えそうな何かのさなかにいて噂話しに聞き耳を立てる
大した話などないのに言いわけをするために予定日に間に合うためにほんの瞬だけの楽しいことについての話を追いこしたあとにはもうそこから見えないもう信じられない過去運がよかった運が悪かったそんな話にもう戻りしかない
聞きわけのない運動神経の悪い小さな子のところで呼びごえがする名前がきこえて来る
何もかもいっぺんに姿を現わずまでかわりがなくても喧嘩をやるべきときだお金がなくても賭けてみるべきときだ
回り始めればもう終わりもないだろう
みんな知っている知っているということを知っている
そしてそれをばかげたことだと思う。

*

やっぱり一生ちゃんとやる気にはならないふざけて地に足のつかないことを作業的にやるだろうティーカップにジン、ブルーシートを敷いて撮影に入る即席のコントをやる
お金が必要だ。

*

君はしようとした
君はぼくとここにしようとした
君はもううまれ変わるのをやめにした
君はドレスごと自分を賭けた
君はぼくをぼくのあたまの外へけり出した
君はぼくの上に跨がろうとした
君はぼくの上に君を作ろうとした

君はいじわるでいた
君はぼくがぼくの人生に
捜したばつでしようした。

*

みんな次の寂しさにのって行くみんなクラブをでて行くのを見るそして次の車が来るのを待ってる
次の星、自分を光らせるあたらしい星を見ながらいつかはぼくが見る全てのものを好きになるだろう
ぼくのテーブルの回りにいて家族の自慢するひとたちのこと
ぼくには家がない君の家に灯りがともらないときこれが全部初めからこわれてたんじゃないかとおもう
君がいつか全部意味なくなるって言うときぼくは君をいい人だとおもう
いい界限のいい人々急に自分が遠くにいるようにおもえるぼくの体からとても遠いところに音は聞こえている
そして最後までぼくは何もうちあげられないだろうぼくが見ている無情じゃないぼろくもない正当じゃないすなおじゃないあらゆるものを
でもぼくはそれでいいとおもう君もそれでいいとおもう。

*

君たちが喋るたび拍きざみ出すところそんなふうにも混乱してるよ近づいて行く自分におれたちが分かちあうだろうすべての夢夢に
その太陽のとてもおくを行くようにぼくはつもなく思い出もなくあんなふうに君たちも行ってしまおう
つるつる光るボール二個だけをもって
それをふくらます空気はおれがもってくる

*

もっとやさしい
話したいよ
日常はやすらかになりたい
らしいよ。
しかくい段ボールの
学問やるところ
タバコのペンをもって
椅子のある
場所へかえる。
暗くて
やすらかな
コーヒーとお香の家。
ウディアレンを観たあとは
ウディアレンふうの男がベッドにすわってる。
たいだな日に
君とふざけて
マッチする時間に。

*

闇のふりして存在しない夜に初めて火をつける短い噂話の風が24時間回って吹いているそれは何度も繰り返されるだけだ
もっと笑わせられたい細かい表情の変わる瞬間にもっと長くしたいいろんな不器用な瞬間はうそを延長しただけだ
光りが多すぎて光りじゃないことが大切になる綺麗だと思わせようとするためにもっと忘れたい。

*

がらす張りの部屋で反省しない生き方 小さなものからかぞえるものだけ世界地図に乗けてくるみ込むその人は射精の事をなんとも思っていない
それまでの円形交差点の事だけを夢にみる
その人は

*

おれは親切になりたいだけだどんなときも親切になりたいだけだ自分を大事にする心がぼろくなって疲れてるせいだ
おれは全部昔にわかってたはずだそれもなすがままにしてきすぎたその回数が多すぎて自分の顔がどんなだったかももう思い出せない
おれはぶじになるだろうかおれはエビ中とぶじになっておれは何もかもとぶじになってひまわりのような女の人を奥さんにするだろうか
大変なことだ夢の土地にいてじっとしたいだけだおれが今まで見た悲しみがもう問題じゃない場所におれは行ってみたい家の中を夢遊するだけでどこに向かってもないけど
おれはただ親切になりたいおれはののしりたいんじゃないおれはあの天使たちの住むところから離れて行くなんて何よりもいやだおれはあの天使たちに不自然な不純さを見つ
けてほしくはないあのおなじみの善人になれなくてもあの子たちが歩いてこれる場所にとまっていたい
どうして水の流れに身を委ねたんだろう何かまちがったことが起きてると
おれは全部昔にわかってたはずだ。

*

いつも△ちゃんのことをかんがえているなんてどうしようもないことなんだそんなことをかの女に伝えるということはつまらないことをただはしらせるただちゃんすることが
歩いていけるようになるずっとやることが線路のようになる△ちゃんをのせて夢が夕日の中をはしる。

*

走りさることだって遠くへ行くことだ

あなを掘ることだって遠くへ行くことだ。